

第 45 回 旧 R D 最終処分場問題連絡協議会の開催結果

- 日 時 令和 5 年 6 月 9 日 (金) 19:00~21:25
- 場 所 栗東市コミュニティセンター治田東 (栗東市安養寺 205)
- 主な質疑・ご意見 (⇒県の回答、→栗東市の回答)

1 前回の開催結果の確認について

①平成 16 年に住民から許可容量超過の指摘があったにもかかわらず、県は問題企業の主張を鵜呑みにして 3 年間調査しなかった。R D 社を倒産させるとその尻拭いを県がしなければならなくなるので、できるだけ生き永らえさせて改善工事をさせようとしていたのではないか。行政対応検証委員会の検証とは切り離して、元県職員に対する聞き取り調査を行い、県の住民対応は誠実であったかどうか検証する必要があり、住民の声を真摯に受け止めていたかどうかしっかりとアーカイブに記載してほしい。

⇒当時の見解としては、安全対策、R D 社に改善命令の履行をさせることが優先であるという認識をしていたようであるが、行政対応検証委員会でも県の対応は甘かったと指摘されている。アーカイブ作成にあたり、経過等をできる限り調べて掲載する。

②跡地利用に関して言うなら、栗東市は周辺で行われる開発について、なぜ情報開示しないのか。それを隠しているのではないか。住民にとっては R D 問題と周辺の開発は一体のものだ。火葬場やホースパークの計画などその都度情報を開示し住民に説明してください。

(栗東市)

→市が計画してる様々な事業を開示していないご指摘があったが、決して隠蔽しようとしているわけではない。タイミングもあるが、しっかり情報提供して共有させていただかなければいけないと思っている。

③図を見ると昭和 55 年と昭和 60 年とでは地山が変わっている。地山は変わるわけがない。県は、R D 社がおかしなことをしていると見抜けたのではないか。

⇒行政対応検証委員会においても、他のいくつかの機会において、R D 社の許可容量を超えた埋め立てを明らかにできたのではないかとされている。

2 令和 4 年度第 4 回モニタリング調査結果について

④ひ素の基準超過原因は自然由来とあるが、どうして自然由来と考えるのか、その理由を明記する必要があるのではないか。

⇒詳細な調査・検討を行い、有識者であるアドバイザーに調査結果と考察の理由を説明しご納得いただいている。

⑤Ks2 層では電気伝導度とひ素が再度上がっているように見えるが、処分場からの影響ではないとするならどういう要因が考えられるか。

⇒No. 3-1 地点の電気伝導度については、底面遮水を行う際に地山の Ks2 層が見えるまで掘っているため、その攪乱の影響が一時的に出て、遮水工事後に落ち着いてきたと考えている。No. 3-1 地点のひ素については、グラフに掲載している以前のデータと比較しても、一概に上昇していると断定はで

きない。ひ素自体については周辺の土壌に含まれるものではあるが、その溶けやすさは地下水の性状に影響されるので、場内の工事の掘削の影響や廃棄物の影響を受けた水によって土壌中のひ素が若干溶けやすくなったという可能性はあると考える。

3 維持管理の状況について

⑥定点観測について、跡地利用にあたって沈下の影響はどう関係するのか。以前紹介された事例では沈下が安定した段階で跡地利用されているのか、あるいはある程度沈下を想定しながら跡地利用されているのか、教えてほしい。

⇒今後検討していく。他府県の状況については確認する。

※ 詳細については、次回の跡地協議会で説明予定

⑦旧処分場周辺は自然休養公園構想の一体的な地域であった。その後バイパスができRDの敷地と経堂池側が分断されたが、栗東市としては、RDの跡地利用について、分断されたニューハイツ寄りの部分の都市計画で進めようとしているのか、あくまで一体とした都市計画を考えているのか。

(栗東市)

→バイパスをまたいだ将来の地域のあり方については、今後検討する必要があるが、現時点でお答えできるところには至っていない。

⑧跡地利用についてイニシアチブを握っているのは栗東市で、この地域をどうしたいのか。適時この場で情報提供してもらいたい。少なくとも跡地協議会の場で情報提供をお願いします。

(栗東市)

→この協議会はRDに特化した場であるが、全体も考えるべきだとのことなので検討したい。

⑨最近ひどい雨が降るし、土砂が流れ出す恐れもあるので、留意して維持管理してほしい。

⇒今年度になって2回くらい強い雨が降った。毎回現場を確認し対応している。昨日も結構雨が降ったので、今日も確認してきた。今のところ問題ないが、最近の雨の降り方は急なので、引き続き注意していく。

⑩水量（揚水量）は、水質と同格で安定化の進行についての重要な指標であるので、できたら過去の分も含めて水量のデータを示してほしい。

⇒次回以降、資料に掲載する。

⑪原水のCODは低いものの、溶解性成分は活性炭装置でほとんど除去されており、それにより処分場からの負荷が減少している。処分場から下水道に放流するリスクについてかなり保証されているので、活性炭装置を先に止めないほうがよいのではと思う。

⇒活性炭吸着で処理しているCODは原水の時点で計画処理水質より十分低い状況である。費用対効果というようなところも念頭に置いて簡素化を進めたいと考えているところ。

4 対策工の有効性を確認するための評価方法について

⑫住民側が不安に思っているのは、掘削除去した所ではなく、掘削しなかった所である。観測地点（調査地点）を見ると、ほとんど有害物があって、掘り出した所になっている。掘削をしていない地点を1, 2か所増やしてもらいたい。

⇒調査地点は、対策工事で掘削しなかった地点も含まれている。

業者や県がどういうことをした地点なのか整理して見せてほしい。

⇒分かりました。

※ **資料1 添付資料** 今回の協議会で説明

⑬水処理している間は、安定化できていないということか。つまり、安定化がいつになるか分からないということは、水処理を止められるのもいつになるかわからないということではないか。

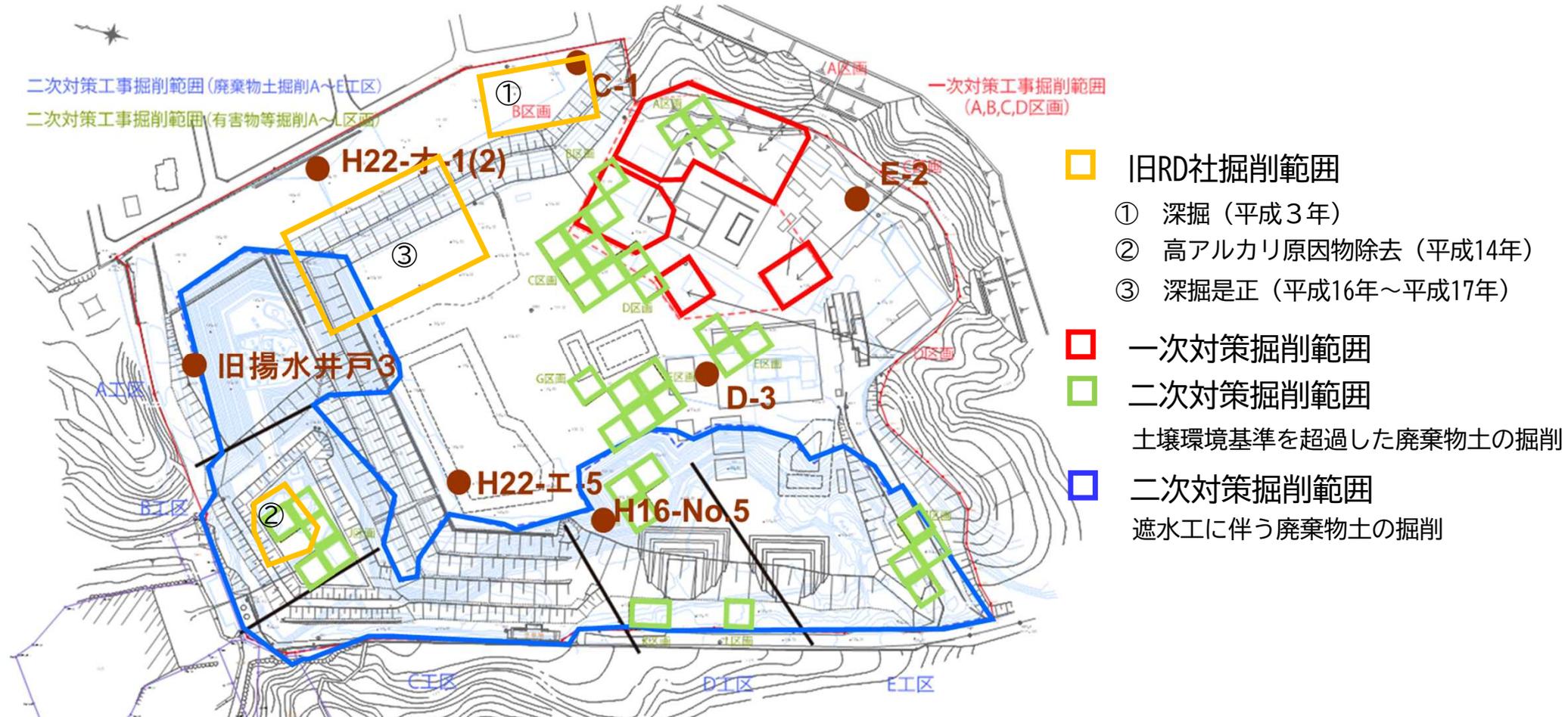
⇒浸透水だけでなくガスや温度を複合的に見ていく。浸透水については水質が良くなってきており、水処理の効率化も順に進めるところに来ている。

ただ、強降雨の時は洗い出しが新しく始まる可能性があるので、しっかり見ていく。

○ 発生ガス

(ア) 測定地点 ● 浸透水観測井戸：7地点 地表面から1m下

廃棄物学会の廃棄物埋立処理処分研究会ではガスの組成の測定は覆土下での測定が提案されており、これに基づき覆土下である地表から1m下で測定する。



測定地点

(イ) 測定項目 発生ガスの流量 発生ガスの濃度(二酸化炭素、メタン、硫化水素)

(ウ) 測定頻度 年2回

※ 安定化の状況によって調査内容を見直す

○ 内部温度 (温度・水温)

(ア) 測定地点 ● 浸透水観測井戸：7地点 ○ 通気管：4地点



測定地点

(イ) 測定頻度 年2回

※ 安定化の状況によって調査内容を見直す